



2020年5月10日発行  
 特定非営利活動法人  
 盛岡YMCA  
 〒020-0015  
 盛岡市本町通3-1-1  
 Tel 019-623-1575  
 Fax 019-623-1579  
 www.moriokaymca.org  
 発行人/濱塚 有史  
 編集/本部事務局

# YMCA News



安全のために、はなれていても  
 わたしたちはつながっています



## 「新年度の意気込み」



こんにちは。ぶらいむ・たいむ向中野校に勤務しております、尾形裕一郎と申します。リーダー名は、顔がねずみに似ているので、大学生リーダーの時から、子どもたちにはちゅーと呼ばれています。

今年度から向中野校のセンター長として働かせて頂くこととなりました。心の中は、期待とプレッシャーでいっぱいです！元気で明るい子どもたちやリーダーの集う向中野校を、これからも大切にしていきたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。

さて、向中野校についてですが、たくさんの個性的なリーダーたちが集っています。年齢・世代、これまでの経歴や価値観など様々ですが、子どもたちに負けないくらい、皆さん元気いっぱい、子どもたちの事を真剣に考えて下さる方ばかりです。

学童保育の現場は、子どもたちとの遊びの中から、大切な事を伝えていくのはもちろんのこと、安全管理や、衛生管理、環境整備など様々な業務があります。また、最近では新型コロナウイルス感染拡大防止のため、手洗いうがいの徹底や、換気消毒など徹底すべきこ

とに加え、社会の動きに応じ、学校が休校になった際の朝からの開所など、様々な対応が求められます。数え上げれば、きりが無いほどやるべきことが満載の状態ではありますが、このような現状の中にあっても、それぞれのリーダーが自らやるべきことに気づき、積極的に子どもたちや保護者の方、学校の方々のために動いて下さっているおかげで、向中野校が成り立っています。

そのことを新年度になり、更に強く感じています。コロナウイルスが終息しましたら、YMCAニュースをご覧になっている皆様も、向中野校のリーダーたちに、ぜひ会いに来て下さいね！

YMCA向中野センター長  
 尾形裕一郎



## 盛岡 YMCA の使命

私たち、盛岡 YMCA は、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。



## 《前潟ぶらいむ》

石川栞(いしかわしおり) 【リーダー名:ましゅまろ】

前潟センターにフレッシュな新入職員、石川栞(いしかわしおり)さん【リーダー名:ましゅまろ】がやってきました。リーダー名の「ましゅまろ」は、なんと10年前からついていたリーダー名だということです。

岩手県の南玄関口である一関市で生まれ育った栞少女は、中学生の時に一関市の世代間交流事業でジュニアリーダーとして活動し、小学生と交流していました。そのジュニアリーダー時代の先輩につけてもらったリーダー名が「ましゅまろ」。確かにふわふわした雰囲気がピッタリだと思います。

その後、栃木県の大学に進学、とちぎYMCAの大学生ボランティアリーダーとして、その年の6月に行われた「とちぎYMCA国際・チャリティーラン」から、本格的にYMCAに関わり始めました。「春の日帰りキャンプ」など、たくさんの方の活動で子どもたちと関わり、2020年4月、大学卒業後、盛岡YMCAの一員として仲間入りしました。

では、所属先のぶらいむ・たいむ前潟校でのましゅまろは?と言うと、出勤初日に子どもたちの顔と名前をすべて一致させたツワモノなんです。ふわふわした雰囲気を匂わせながらも、洞察力は素晴らしいものを持っているかもしれません。若さを活かした機動力、そして中学時代体操部での経験を活かした美しい側転や美しい逆上がりなど、子どもたちはましゅまろに目を輝かせています。(でも、自転車の片足乗りはヘタなんです。)そんなましゅまろに簡単なインタビューを行いました。

### 【Q1】一関市ってどんなところ?

A. 自然が豊かでありながら、新幹線停車駅など交通の便が良くバランスの取れた住みよい街。

### 【Q2】盛岡に来てやりたいことは?

A. まずは冷麺をいっぱい食べたい!そして小岩井農場で羊と戯れたい!

### 【Q3】前潟校の子どもたちについて。

A. 元気でピュア!(笑)

以上、ふわふわで機動力が高く洞察力が優れている(...かもしれない)、ましゅまろを皆さん宜しく願いいたします。

前潟センター長 東森聡



## 《向中野ぶらいむ》

藤原依音(ふじわらいおん) 【リーダー名:らいおん】

向中野センターに、新しい仲間(スタッフ)が加わりました。名前は、藤原依音(ふじわら いおん)さん。リーダー名は、らいおんと言います。昨年度、本町センターのスタッフでした、さかなリーダーと同じ専門学校の後輩で、それがきっかけでYMCAを知ったそうです。動物系の名前を持つリーダーがさる、ちゅー、きりん引き続き、また向中野校に増えましたね。

そんならいおんリーダーですが、向中野センターでは、90名近くおられます子どもたちと、日々一生懸命、体当たりで向き合っていますよ。まだ向中野センターに来たばかりですが、子どもたちの名前もほとんど覚えておりまして、外遊びに行っている子どもたちのお迎えを呼ぶときに、らいおんリーダーに連絡しても、どの子がどの子か分からない!なんていうことは、ありません。

また、向中野センターに出勤したとき、らいおんリーダーは、自分で気づいて掃除を行い、玄関を綺麗にしてくれたり、子どもたちがお弁当を食べた後の台拭きを干し、乾いたものを畳んで取り出しやすいように戻してくれたり、そういった小さなことに気づき、丁寧に行動できる力を持っています。また、自分にはできないことはいかか、自ら聞きにきてくれます。

このように、外からは見えない仕事であっても、人から言われなくとも、きちんとできるらいおんリーダーは、将来的にすごいリーダーになるのではないのかなぁ!と勝手に期待し、心強い存在だと感じております。

まだまだ向中野センターに来たばかりのらいおんリーダーを、今後ともよろしくお願いします!

YMCA向中野センター 尾形裕一郎

# 学童だより ～本町学童～

2020年度のぶらいむ・たいむ本町校には、元気いっぱいの1年生9人が仲間入りしました。学童に来た当初は緊張している姿も見られましたが、今では好奇心旺盛に色々なことに興味を持っています。「これは何?どうするの?」と聞いてくる1年生に対し、優しくルールを教えてあげたり、宿題のわからないところを教えてあげるなど、2年生以上は、昨年度までと違う姿を見せてくれています。

そんな2年生以上の子どもたちに声を掛けると、「自分もよく友達に教えてもらっているから」という返事が返ってきます。自分がしてもらったことを、他者にもしてあげられることは、とても素敵なことだと

感じました。また、公園での鬼ごっこや土遊びでも、積極的に1年生を誘ってみんなで遊び楽しもうとする姿が見られます。上級生が、「1年生は足がそんなに速くないから、合わせて走ろう」とルールを決めたり、速く走るコツを教えるなど、全員が楽しめる遊びを展開しています。

ぶらいむ・たいむ本町校の良さは、学年の垣根を越えて一緒に楽しめる部分だと思います。その良さをさらに広げていきたいと思えます。

YMCA本町センター 中村圭一



## 学童だより ～前潟学童～



今年度、ぶらいむ・たいむ前潟校は新たに6人が仲間入りし、さらに賑やかになってきました。今年度も子どもたち45人とリーダー8人で明るく、楽しく過ごしていこうと思います！

ぶらいむ・たいむ前潟校では、4月3日(金)に5グループに分かれ、いつも遊んでいる公園や歩道など、前潟センター周辺の地域清掃を行いました。各グループ、それぞれ担当する場所に行き清掃するのですが、行く途中の道路にもタバコの吸い殻や、お菓子の包み紙などのごみが落ちていました。自分たちが遊んでいる場所、通っている道にたくさんのゴミが落ちていることにビックリしている子もいました。

「なんで、道にゴミ捨てるんだろう？ゴミの日に捨てたらいいのに！」と怒っていた子や、「ちゃんとゴミ捨てよう」という子もおり、年度初めに子どもたちにとって、ものすごくいい経験になったと思います。

13:00～15:00の地域清掃終了後、河原の掃除を子どもたち全員が自主的に行う姿を見て、感心を通り越して感動しました。誰かが指示するわけでもなく、自分自身でやる場所を決め一生懸命に掃除したり、一人で掃除している子を見つけると、すぐに手伝いに行っていました。

天気にも恵まれ納得いくまで掃除した河原を見る子どもたちの顔は、達成感と仲間と活動する楽しさでいっぱいでした。いつも以上に、子どもたちの成長や仲間を助ける思いやりが見られた地域清掃でした。

地域清掃では、子どもたちの良いところや思いやりをたくさん見ることができ、今年度もきっと楽しく活動できる！と確信しています。これからも子どもたち・リーダーで、仲間への思いやりを忘れず、楽しい学童生活をしていきます！

YMCA前潟センター 大久保里美



## 学童だより ～向中野学童～



コロナウイルスによる学校休校措置から1か月。ぶらいむ・たいむ向中野校へも新年度が訪れました。4月からはこれまでいた仲間たちに加え、17名の新しい仲間たちが増えました。これまで頼りにしてきた6年生たちが卒業し、不安やワクワクの中、進級生たちもどこか落ち着かない表情でしたが、学校が始まり、環境の変化にも段々と慣れてきました。

春休みの学童内での流行はダンス・カードゲーム・すごろく・イラスト・人狼・家族ごっこなど様々でした。外出の時間がどうしても限られてしまう中で、学童の中で出来ることを考え、周りを巻き込み、色々なルールで遊びを作り上げていました。外に出ることのできる時間は鬼ごっこや遊具で遊び、散歩として公園などにも出かけました。この春休みに特に印象深かったのは、男女の壁がほとんどなく、学年をも越えて遊んでいたということです。その中で、低学年と高学年とのつながりをとても感じました。

話は変わり、新1年生はとにかく元気いっぱいです。5年生や6年生に対してもたくさん話しかけ、一緒に遊び、時にはぶつかる時もありますが、自分の気持ちをとても素直に表現してくれます。その姿を見て、高学年のメンバーも優しく接してくれ、おんぶをして学童内を歩いたり、砂場で遊んでいたりと、様々な年代が混ざり合いながら楽しく過ごしています。向中野校へ通うメンバーは、全員が向中野小学校に通う小学生です。業間休みや昼休みに外で元気に遊び、時々窓から呼びかけてくれます。たくさんの人数がいて、たくさんのぶつかりが日々起こりますが、自分たちの気持ちに正直な子どもたちと、たくさんの笑いにあふれる楽しい1年間を過ごしていけたらいいなと思います。

YMCA向中野センター 向平悟



## 学童だより ～盛南学童～



こちら、4年目の春を迎えた盛南センターから、盛南センター2年目のありんこがお伝えします！今年度は、新1年生13名、宮古市からの転校生1名を迎え、計42名でスタートしました。新たな場所で、しかも周りは得体のしれない“コロナなんちゃら”の言葉が飛び交う中の生活に、子どもたちも悠然と!?毅然と!?立ち向かっております...?

え?何が言いたいかって??つまり、盛南センターの子どもたちはいつも通り元気です、ってことです。最高学年を迎え児童会長になり、人生バラ色??毎日を過ごすお兄さん、新しく入ってきた1年生が可愛いと言って、異様なまでにデレデレを見せるお姉さん、やんちゃ200%の弟たちの面倒に奔走するお姉ちゃんなど、2年生以上のいわゆる“先輩たち”が日々、リーダーさながらの奮闘ぶりを見せてくれています。

一方で、新入生たちはというと、先輩たちの助言?もどこ吹く風。『暖簾に腕押し』、『馬の耳に念仏』状態で、マイペースに保育園・幼稚園とは違う生活をエンジョイしているようです。

女の子たちは『ケーキ屋さんごっこ』、男の子たちは『レゴブロック遊び』がブームです。あと、何故か?!『IKKOさん』のモノマネがあちこちで聞かれます...(某リーダーが始めたとかなんとか...)。とにもかくにも、コロナ

ウイルスにも負けず劣らずの我が盛南センターは、お披露目エピソードにも事欠かない、毎日元気なセンターです!!引き続き、『手洗いうがい・換気、時々、どんだけ～』をモットーに、楽しい毎日を送りたいと思っています。落ち着いたら、皆さんの元にも「どんだけ～」と現れるかもしれません。ご期待ください!!

YMCA盛南センター 菅原歩



Tomorrow

「風と共に去りぬ」は、1936年に出版された世界的ベストセラーだ。その後映画化され、アカデミー賞を受賞している。舞台はアメリカ南部のジョージア州アトランタ。1860年代、奴隷制の残る南北戦争の時代の話である。

ヒロインのスカーレット・オハラは綿花栽培の大農園<タラ>の長女として産まれた。勝ち気な性格だが、天真爛漫で飾り気のない人柄が周りの人々を引き寄せる。映画では激動の時代の中、彼女のたくましく生きる姿が描かれている。その半生はまさに波瀾万丈。

失恋、母の死、敗戦によって一面焼け野原になった農場<タラ>。そして、一念発起して立て直した後に土地に課せられる重税。さらには娘の落馬事故による死、この他にもスカーレットに降りかかる災難は後を絶たない。最後には最大の理解者であり夫でもあるレッドも去って行くのだった。

しかし、エンディングではあの有名な映画音楽「タラのテーマ」をバックにヒロインのスカーレットは、こう誓うのだ。「**Tomorrow is another day.**」**「とりあえず、明日タラで考えればいいのよ。明日になれば耐えられる。だって明日は今日とは別の日だから。」**この言葉には、人生に翻弄されても、なおも希望を捨てない彼女の生き方が込められていると思う。

新型コロナウイルスの拡大で、不安な日々が続いている。毎日の感染者数を見る度に心は暗くなる。明日はどうなるのだろうか。医療崩壊は免れるのか？経済は大丈夫なのか？それより世界はどうなるのか？予測のつかない出来事が私たちの不安を募らせる。このような時だからこそ、スカーレット・オハラの凜とした態度に励まされる。

**「だから、明日のことを思い煩ってはならない。明日のことは明日自らが思い煩う。その日の苦勞は、その日だけで充分である。」**  
(新約聖書 マタイによる福音書 6章34節)

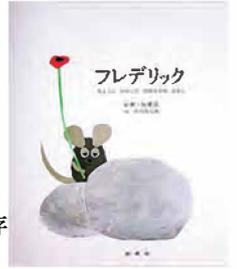
**「主の慈しみは決して絶えない。主の憐れみは決して尽きない。それは朝ごとに新たになる。」**  
(旧約聖書 哀歌 3章22-23節)

盛岡YMCA 総主事 濱塚有史

※互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる、善意や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと

『フレデリック〜  
ちよっとかわったのねずみのはなし〜』

レオ・レオニ 作  
谷川俊太郎 訳  
好学社



『フレデリック』は1969年出版で生まれてから51年となる絵本です。作者は皆さんよくご存じの『スイミー』の生みの親、レオ・レオニです。

読めば読むほど、解釈や想像がどんどん広がる絵本なので、大人の方も楽しめます。ラストのセリフ「そういうわけさ」も様々な想いを巡らせてくれます。

このセリフの主、野ねずみのフレデリックは、周りの野ねずみたちが冬ごもりのために食料を集め、隠れ家にせせと運んでいる中、目を閉じてぼーっとしていたり、まきばをじっと見つめたりしています。「どうしてきみは、はたらかないの?」と周りの野ねずみたちがフレデリックにきくと「こうみえたって、はたらいてるよ。」との返事。どうみえたって働いているようには見えません。よくよく聞いてみると『おひさまの光』や『色』、『ことば』をあつめているとのこと。さすがにその言い訳は怒られるよ。。案の定、周りの野ねずみたちも少し腹をたててしまいます。

長い冬ごもり。始めのうちは食料も話もつきず、楽しく過ごしていた野ねずみたちでしたが、だんだんと食料もへり、寒さも増し、おしゃべりする気にもなれなくなってきました。そんな中、ふと思い出して、「きみがあつめたものは、どうなったんだい?」と聞く野ねずみたち。すると、フレデリックは言いました。「めをつむってごらん。」この後、フレデリックの素敵な力に、野ねずみたちは思わず「これは、まほうかな?」とつぶやくのでした。。

皆と同じ行動をしない、ちよっとかわったフレデリック。でも、周りの野ねずみたちは、そんな彼とともに過ごし、ありのままを受け入れていました。フレデリックの素敵な力が輝いたのは、そんな仲間たちがいたからではないでしょうか。貼り絵でつくられた、温かみのある雰囲気があり、そう感じさせてくれます。違いがあって当たり前。その違いの中に、それぞれの魅力がある。まるで「君でいいんだよ」とささやいてくれているような絵本です。

盛岡 YMCA チャイルドケア事業部統括  
小川 嘉文

【リーダーチャンネル】

盛岡YMCAのリーダーたちは、現在ボランティア活動の自粛をしています。そんなリーダーたちが今できることを考え、行動しています!その一つが、『リーダーチャンネル』の発信です。SNSを通して、子どもたち、大学生、社会に向けて、リーダー一人一人の個性を活かし、おうちでの楽しみ方、元気と笑顔を届けています。ぜひご覧いただければと思います!



Facebook

Twitter

Instagram



リーダーチャンネルの様子です。おむすびリーダーが、リーダー体操をしています♪他にも折り紙、ものまね、マッスル体操などたくさん動画配信!!

表紙の写真から



普段当たり前のように会った子どもたちや、リーダーたちに会えなくなり、少しでも離れていてもつながっていることを伝えたい!という思いでリーダー会で作成しました。

リーダー会長 宮澤秋彦(シュリンブリーダー)

最新情報はこちらでチェックできます!「盛岡YMCA」で検索ください。

ホームページ : <https://www.moriokaymca.org/>

facebook : <https://ja-jp.facebook.com/moriokaymca/>